

ひとりだち

きこえとことばの
支援センターだより
R7年3月号



すけ
みみの助

きこえとことばの支援センター

当校は県内一校の聾学校として、「きこえとことばの支援センター」を中心に地域の学校等への訪問支援活動を行っています。聴覚部門を設置している恵那特別支援学校、飛騨特別支援学校、そして難聴児支援センターとも情報を共有し、連携を図っています。

地域の園や学校、大学等には、きこえる人達の中で学び、生活している聴覚障がい児者がたくさんいます。そして、その多くは「園や学校の中にきこえにくい人は一人だけ」といった状況です。きこえる人達からは、「補聴器を着けているのだから、きこえているだろう」「音声で話しているから、相手の話も音声だけで聞き取れるはず」「みんなと同じように行動しているから、きこえているにちがいない」等と思われ、きこえにくさゆえにうまくいかないことを「やる気がない」「きく気がない」と誤解されてしまうことがあります。また、友達との関わりでは、「話し掛けても〇〇くんは返事をしない」「〇〇さんはいつも無視する」等、勘違いによりトラブルになることもあります。しかし、きこえにくさについて知ることで、聴覚障がい児者への見方が変わり、関わり方が変わります。地域の学校での理解啓発授業が終わったとたん、「周りの子どもたちの関わり方がガラッと変わった」という声を聞くことも少なくありません。

当校の「きこえとことばの支援センター」では、地域で学ぶ聴覚障がい者を有する乳幼児児童生徒学生及びその家族や関わりのある方々に対して、様々な支援を行っています。今年度、訪問した園・学校は延べ31校、理解啓発授業は939名の皆さんに実施し、ポケットラジオやイヤマフを使用している難聴体験や補聴器体験を行いました。



小学校での理解啓発授業

体験後には、「だれが自分に話し掛けているのか、だれが何の話をしているのかが分からなくて、こわさを感じた」「補聴器をつければ良いと思っていたけど、機械とかだけじゃ解決できない悩みとかがあると思った」「何が得意か何が苦手なのか一人一人ちがうから、日常生活でお互いによりそっていくことが大切だと感じた」等の感想がありました。一人でも多くの方に聴覚障がいについて知っていただき、きこえにくい人もきこえる人もすべての人が共に笑顔で過ごす社会の実現につながればよいと考えています。

中でも理解啓発活動にとっても役立っているのは、皆さんから寄贈していただいた補聴器です。今後使用する予定のない補聴器がご自宅にありましたら、学校へ寄贈していただけるとありがたいです。聴覚障がいへの理解を深めるために活用させていただきます。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。



ぎょうしゃらいこうよてい び 業者来校予定日

- * 理研産業 … 4月 9日 (毎月第2水曜日)
- * ナショナル補聴器センター… 4月 16日 (毎月第1・3水曜日)

場所:本館1階 補聴相談室

時間:13時30分~相談が終わり次第終了

※イヤモールド作成、補聴器の不具合等の相談は、業者来校日の前に、担任を通じて各部の補聴相談係への連絡後、申し込み用紙の提出をお願いします。